

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 18年10月－輸出は自然災害の影響剥落で増加に転じるも、減速基調は変わらず

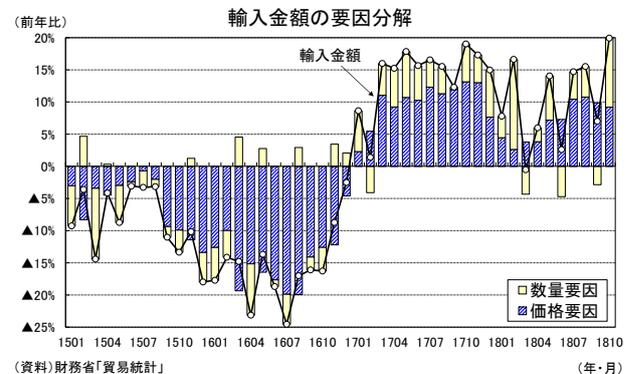
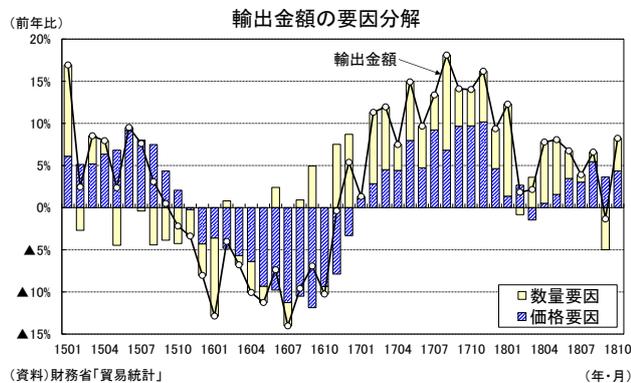
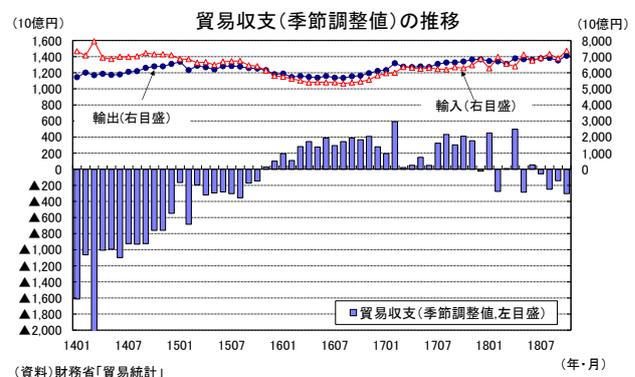
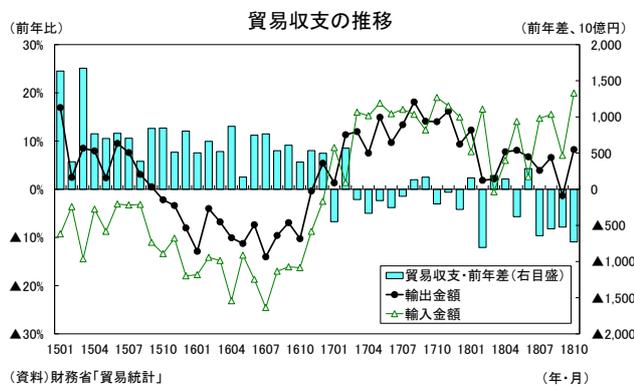
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は4ヵ月連続の赤字

財務省が11月19日に公表した貿易統計によると、18年10月の貿易収支は▲4,493億円と2ヵ月ぶりの赤字となり、事前の市場予想(QUICK集計:▲488億円、当社予想は▲1,473億円)を大きく下回る結果となった。輸出は前年比8.2%(9月:同▲1.3%)と2ヵ月ぶりに増加したが、輸入が前年比19.9%(9月:同7.0%)の大幅増加となったため、貿易収支は前年に比べ▲7,278億円の悪化となった。

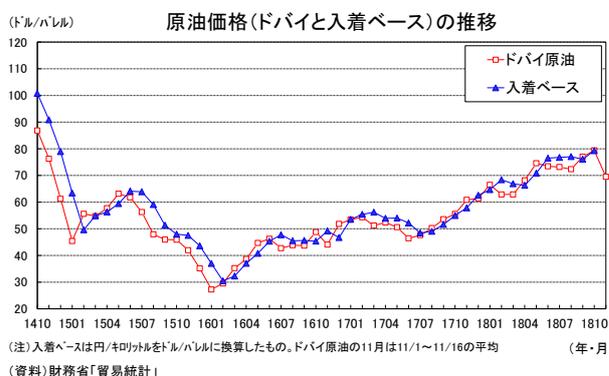
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比3.8%(9月:同▲4.9%)、輸出価格が前年比4.3%(9月:同3.7%)、輸入の内訳は、輸入数量が前年比10.3%(9月:同▲2.7%)、輸入価格が前年比8.7%(9月:同10.0%)であった。



季節調整済の貿易収支は▲3,027億円と4ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は9月の▲1,415億円

から拡大した。輸出入ともに前月比で増加したが、輸入の増加幅（前月比 6.6%）が輸出の増加幅（前月比 4.3%）を上回ったことが貿易赤字の拡大につながった。

10月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=79.3ドル（当研究所による試算値）と、9月の76.1ドルから上昇したが、足もとのドバイ原油価格は60ドル台半ばまで急落している。通関ベースの原油価格は市場価格の動きが遅れて反映されるため、11月は80ドル台前半まで上昇するが、12月以降は70ドル程度まで低下することが見込まれる。夏場以降の貿易赤字は原油高の影響が大きかったが、先行きは原油価格の下落が貿易収支の改善要因となるだろう。

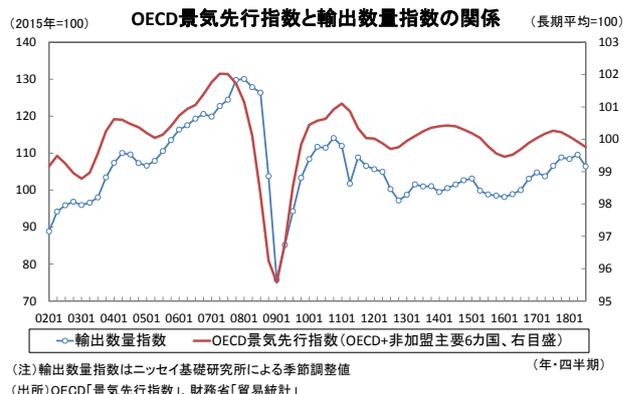
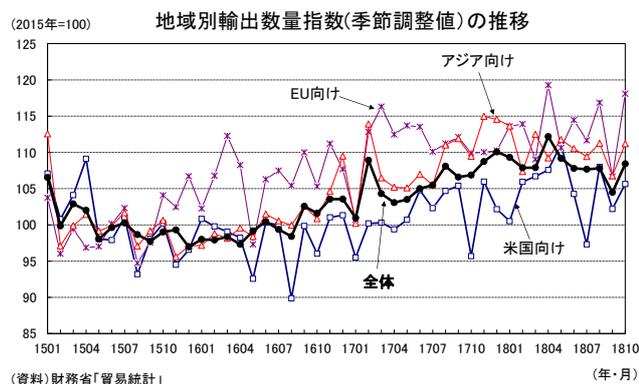


2. 輸出の減速基調は変わらず

10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 10.1%（9月：同▲3.0%）、EU向けが前年比 6.9%（9月：同▲4.7%）、アジア向けが前年比 1.3%（9月：同▲4.6%）と主要3地域向けの全てが9月のマイナスからプラスに転じた。

10月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比 3.4%（9月：同▲5.4%）、EU向けが前月比 10.7%（9月：同▲8.7%）、アジア向けが前月比 4.1%（9月：同▲4.0%）、全体では前月比 3.8%（9月：同▲3.1%）となった。

10月の輸出数量は、自然災害の影響剥落を主因として高めの伸びとなったが、10月の指数（当研究所による季節調整値）は自然災害によって押し下げられる前の4-6月期の水準を取り戻していない。製造業 PMI（購買者担当指数）は17年末をピークに低下傾向が続き、日本の輸出数量に対して先行性のある OECD 景気先行指数（OECD+非加盟主要6カ国）も18年入り後は緩やかに低下するなど、輸出を取り巻く環境は徐々に厳しさを増している。米国経済は好調を維持しているが、欧州、中国をはじめとした新興国の回復ペース鈍化を背景に、輸出の減速傾向が続いていると判断される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。